

6月25日（火）

ハーフェンシティ視察

ハーフェンシティインフォメーションセンターを訪れ、専門ガイドであるカルステンセン氏より、ハーフェンシティについて説明を受けた。

ハーフェンシティは、ハンブルク港と倉庫街を結ぶ職住近接をテーマにした新しい地区である。もともと住民がいなかった地区であり、市100%出資、市から0ユーロで売ってもらい特別財団となった。当時のハンブルク市民にとっては、住めるようになるとは想像もできなかったエリアである。

2001年から20～30年という長い期間で開発が進められており、完成後は水の都ハンブルクを代表する地域となると言われている。

ドイツ広場とバウムウォールの間には、世界最大の倉庫群であるシュパイヒャーシュタットがあり、ユネスコの世界遺産に登録されている。シュパイヒャーシュタットの名は、かつてコーヒー、紅茶、ココア、香辛料、タバコなどの商品が保管されていた赤レンガの倉庫群に由来する。建物内には、税関と香辛料博物館、ハンブルク・ダンジョン、世界最大の鉄道模型があるミニチュア・ワンダーランドなどの博物館もある。

この再開発プロジェクトは、エルベ川沿いの157haに住宅や学校、公園、ホテルなどを整備し、経済活動と4,500人の雇用を創出する欧州最大規模の都市開発計画である。住むことと働くことをなじませるというコンセプトで、いろんな分野の人が集まる多様化を意識して整備を行っている。

エルベ川沿岸の再開発プロジェクトで重要な課題は洪水対策である。過去に何度も浸水被害を受けてきたことから、海拔を底上げしてその上に建物や道路が建設されている。しかし、エルベ川近くの遊歩道は水辺との距離が近いとため、今でも浸水被害にあう店舗があるが、浸水することを前提に設計されている。

また、2009年に友好都市提携20周年を記念して命名された大阪アレー（大阪通り）などハーフェンシティ内の視察も行った。



（大阪アレー（大阪通り））



(ハーフェンシティについて説明を受ける代表团)

【主な質問】

Q. 学校はあるのか。

→公立の幼稚園から大学までそろっている。高齢者施設もあり、すべての世代に住みやすいまちを意識している。

Q. 木製住宅の洪水対策はどうなっているか。

→上層階は木製だが、下の数階は鉄骨となっている。

大阪市・在ハンブルク日本国総領事館共催答礼レセプション

総領事公邸で答礼レセプションを開催し、戸田総領事、横山市長、竹下議長が代表して招待者をお出迎えした。

戸田総領事、横山市長、ハンブルク市側の挨拶に続き、竹下議長の挨拶と乾杯の発声で始まった。ここでもミャクミャクによる万博PRが行われ、会場を賑わせた。

35周年事業にご参加いただいたハンブルク市の方々や在ハンブルク日本企業の方とそれぞれ意見交換を行った。



(挨拶する議長)

【横山市長 挨拶要旨】

レセプションの主催者として大阪市を代表し、一言ご挨拶申し上げます。本日はこのようにたくさんの方にお越しいただき、盛大にレセプションを開催できることを心よりうれしく思う。本日でハンブルク滞在3日目となる。大阪市とハンブルク市は、本年で友好都市提携35周年を迎えた。この滞在中、ハンブルク市やハンブルク商工会議所ほか、関係者の多大なるご協力のもと日程を進めることができ、両市の絆を深めることができたと感じている。また、今年はビジネスパートナー都市の提携をし、5周年の節目の年でもある。今回、ヘルスケア・医療と環境関連の在阪企業にも同行いただいている。これからも、都市間のさらなる経済交流を一層促進していきたい。いよいよ来年には、大阪・関西万博が開催される。世界中の方々に来場いただき、楽しんでいただける万博に向けて開催準備を進めているので、是非、皆様方のご来場をお待ちしている。大阪市とハンブルク市の連携がさらに深まるよう、また、本日お集まりの皆様のご健勝・ご多幸を祈念して、私からのご挨拶とさせていただきます。また2025年に大阪でお会いしましょう。

【竹下議長 挨拶要旨】

ハンブルク滞在中、皆様方にはあたたかくお迎えいただき、在ハンブルク日本国総領事館の戸田総領事をはじめ、本日ご臨席の皆様におかれては、大阪市とハンブルク

市の35周年記念事業の成功にご尽力いただいたことに、大阪市会を代表し、この場を借りてお礼申し上げます。大阪市代表团とここハンブルクを訪問させていただいたが、私にとって初めてのハンブルク訪問である。港湾ボートツアーや噴水ショー、エルプフィルハーモニーの視察など、ハンブルクの都市景観の美しさに大変感銘を受けた。両市の交流をさらに深め、それぞれの得意分野を生かした提携を行うなど、より一層良好な関係を築いていくことになればと願っている。両市民のさらなる交流の促進と本日ご出席の皆様のみますますのご健勝・ご多幸を祈念する。

ハンブルク・クリエイティブ・ソサイエティ訪問

ハンブルクにおけるクリエイティブ産業（ソフトウェア、広告、デザイン等）とパートナー企業とのマッチメイク機関であるハンブルク・クリエイティブ・ソサイエティを訪問し、デザインセンターハンブルクの施設の説明をお伺いした。

大阪においては、産業創造館にMEBIC（メビック）があり、既存企業とデザイナーをマッチメイクし新たなイノベーションを生み出す取り組みを実施していることから、とても参考になる施設であった。

エグベルト・ルール氏から「ハンブルククリエイティブソサイエティについて」、ラファエラ・ザイツ氏から「クロスイノベーションハブについて」プレゼンしていただいた。



（プレゼンの様子）

ハンブルク・クリエイティブ・ソサイエティは、ハンブルクにおけるクリエイティブ産業の最初の窓口であり、ドイツ最大の自治体クリエイティブ産業振興組織である。ハンブルク自由ハンザ同盟都市の100%子会社であり、文化メディア省に割り当てられている。主に「不動産・都市開発」「コンサルティング・トレーニング」「イノベーション・インキュベーター」「ネットワークング・会議」「資金調達・融資」の観点からクリエイティブ産業の支援、開発を行っている。食品、建築、ゲーム、音楽、メディア媒体、芸術等幅広い分野の産業と連携しており、クロスイノベーションにも力を入れている。ビジネスとクリエイティブティを横断し、あらゆる業界や規模の企業とトップクリエイターを結びつける。

デザインセンターハンブルクは、ハンブルク市が主催するデザイン産業の振興と認知のための機関であり、デザイン産業の成長、発展、変革のプロセスをサポートし、ビジネスとデザイン産業の仲介役として活動している。デザインは、経済・社会のエコロジー的・社会的変革に向けた重要な能力の一つと考えられている。デザイン産業



（プレゼンを聴く代表団）

とその担い手の重要性と可能性を可視化し、助成金プログラム、ディスカッション、トレーニングなどの形式で、若手デザイナー、フリーランスの個人デザイナー、既存のエージェンシー、デザイン志向の企業などに機会を提供している。また、新しいアイデアのためのネットワークとインキュベーターとして、デザイナー、大学、産業界との学術的な対話を促進するなど、デザイナーのためのコンタクトポイントでありハブとなっている。デザイン産業は年間約30億ユーロの売り上げを生み出し、デザイン面だけでなく経済面でもハンブルクを特徴づけている。

スタートアップ機関訪問

スタートアップ施設である「105VIERTEL HAMBURG」を訪問し、ヨハネス・ブドキウイツ氏の挨拶のあと、横山市長から「大阪のスタートアップエコシステムについて」プレゼンを行い、続いて現地のスタートアップ3社もプレゼンを行った。

その後、大阪では、うめきたにある大阪イノベーションハブ（O I H）が重要な役割を果たしていることから、今後の連携も含めて意見交換を行ったところ、スタートアップ側から、大阪への進出にはパートナー企業を見つけることや、顧客や流通経路開拓への支援を望むなどの声があった。

【横山市長のプレゼン要旨】

大阪市のイノベーションに関する取り組みについて紹介する。大阪は古くから経済・文化・観光の中心地として栄えてきた。京都や神戸といった主要な都市に30分で行くことができ、東京へも飛行機で1時間で行くことができる。そして、世界的な観光地でもあり、ビジネス街でもある。豊かな食文化やユニバーサルスタジオジャパンをはじめとした様々なエンターテインメント、日本を代表する伝統芸能などを目的に、多くの外国人観光客が大阪を訪れている。大阪を訪れる外国人観光客は、2024年にはコロナ禍前の2019年を14%上回り、1,400万人になる見通しで、大変活気のある街である。



（プレゼンする横山市長）

大阪市では、世界中から集まる人材、新技術、資金を活用し、スタートアップが生まれ成長し、その成長が新たなスタートアップを生み出し経済成長をもたらす原動力となるイノベーション・エコシステムの形成を目指している。そのため、2013年にスタートアップや起業家が集まるイノベーション創出拠点としてO I Hを設置し、コミュニティの形成、ビジネスプランの事業化を支援している。これらのミッションを達成するために、O I Hではピッチコンテスト（投資家や企業を相手に、短い時間でわかりやすく事業のことを伝え、事業拡大に向けた資金調達や事業連携につなげるためのコンテスト）やアクセラレーションプログラム（スタートアップが起業経験者や大企業との連携により、事業成長の加速を目指すプログラム）など年間約200のイベントを開催している。イベントの中には、「Hack Osaka」や「GET IN THE RING」などの国際イベントがあり、こうしたピッチイベントなどを通じ、スタートアップ企業が世界につながる機会を創出している。O I Hの設置後、会員であるスタートアップや大企業・投資家は順調に増えており、支援したスタートアップの資金調達額も増えている。O I Hの活動で大阪のスタートアップエコシステム（スタートアップを支援する

システム) は発展してきている。海外の方々も利用できる。

来年はいよいよ大阪で万博が開催される。大阪のヘルスケアパビリオンで、スタートアップの技術を展示するので、ぜひご覧になってください。大阪ではスタートアップが成長できる様々な機会を提供している。ぜひ大阪に来て、成功につなげていただけたらと思う。